

横田英史の 書籍紹介コーナー



グーグルが消える日

ジョージ・ギルダー、武田玲子・訳
SBクリエイティブ 1,980円(税込)

「テレコズム」や「テレビが消える日」で知られる経済学者・未来学者のジョージ・ギルダーの新著。グーグル的なウイナー・ティク・オールで中央集権的な世界は終焉を迎える、ブロックチェーンをベースにした分散コンピューティング(ピア・ツー・ピア)の世界が間もなくやって来て、人間がインターネット上で尊厳を取り戻すと主張する。ITやインターネットの将来像を考える上で一つの見方を示しており一読の価値がある。

筆者は、アルゴリズムに頼ったAIが人間の頭脳を廃れさせると警鐘を鳴らす。グーグルに対しては、「人間を自社のアリゴリズムよりも知的レベルが劣る存在と位置づけている」と徹底的に批判する。ブロックチェーンがインターネットのアーキテクチャを抜本的に変え、個々人のニーズに合わせることができる分散型の環境が実現するという。

巨大システム 失敗の本質 ～「組織の壊滅的失敗」を防ぐ たった一つの方法～

クリス・クリアフィールド、
アンドラーシュ・ティルシック、
櫻井祐子・訳
東洋経済新報社 2,640円(税込)

高速株取引における誤発注事件(金融メルトダウン)や独フォルクスワーゲンのディーゼル排出量偽装、スターバックスのハッシュタグ事件といった比較的新

しい話題を取り上げた「システム絡みの失敗の研究」。ツールや行動経済学を使った失敗回避法など新しい知見を紹介する。アポロ宇宙船やスリーマイル島といった古典的な事件を含め多くの事例を取り上げる。若干だがIoTにも言及している。

筆者が強調するのが、最近はシステムの構成要素ではなく、要素間のつながりが失敗を引き起こしている点。要素間が密に結合し、しかも複雑に作用を及ぼし合っているのが現在のシステムである。構造化された意思決定ツールの利用や多様性に富むチーム編成、先見の後知恵といった思考法などを勧める。多様性については、簡単に合意することがなくなることに価値があると指摘する。

好奇心が未来をつくる ～ソニーCSL研究員が妄想する 人類のこれから～

ソニーコンピュータサイエンス研究所
祥伝社 2,530円(税込)

ソニーの100%子会社として1988年に設立されたソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)に在籍する研究者集団が語る、「今とこれからの研究と技術」「今考えていること」「人類と技術の未来」など。研究分野はAIや脳科学、農業、健康医療、音楽と神経科学の融合など多様だが、人類の未来のためという問題意識は共通する。

最先端の研究に携わる面々のコメントは、「人間がテクノロジーに適応して進化する」「テクノロジーで人間の知覚

は変容できるのか」「テクノロジーを作ることは未来の人類を発明すること」「意識のメカニズムを解明することによって、創造性を最大化する」など刺激的だ。AIの北野宏明(所長)や人間拡張の曽本純一、脳科学の茂木健一郎などの有名人も登場するが、彼ら以外の研究者の話も「こんな問題意識や研究もあるんだ」と興味深い。

AIと憲法

山本龍彦
日本経済新聞出版社 2,640円(税込)

AIに法人格を与えるべきか、自動運転車が事故を起こした場合の責任はどこに帰属すべきかなど、若手法律学者がAIを法的にどのように位置づけるべきかを論じた書。企業の採用や与信、犯罪者予測にAIが使われ始めた時代に入っていること、時宜を得ている。

AI時代における個人の尊重とプライバシー、表現の自由の問題、民主主義や選挙制度などを取り上げる。AIは経済合理性や効率性、機能などで論じられることが多いが、AIが人間社会を大きく変えようとしている現在、哲学的・法律的な議論が不可欠であること改めて思い起こさせる。ビッグデータに基づくAIの予測・評価は集団主義の発想に基づき、個人を集団の一部として捉えている。個人を掛け替えのない個人として尊重しようとする日本国憲法の基本原理に反しているというのが本書の主張である。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現ITPro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。
2004年11月、日経パイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。2018年3月退任。
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、現在に至る。
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

